

# 一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢  
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院  
(高等部)

## 自己鍛錬の積み重ねが導いたもの

— 志木高競走部の駅伝への想い —

● 志木高等学校 教諭

大瀧 学  
おおたき まなぶ

2012年12月、志木高競走部は第74回奥多摩溪谷駅伝競走大会「高校の部」(男子)において優勝を飾りました。高校の部は出場校が少なく運も良かったのですが、伝統ある規模の大きな大会であり、力のある学校を数校抑えての優勝でした。歴代優勝校は関東・東北地区の駅伝の名門校ばかりで、そこに名前を連ねることになったのは志木高競走部にとって歴史に残る栄誉だと思います。

この駅伝のコースは、全6区間とも高校生にとっては比較的距離が長く、高低差もそれなりにあるので、日頃の練習がしっかりできている上で粘り強く走り切ることに要求される、肉体的にも精神的にもタフなものです。そんな難コースで各チームそれぞれブレイク気味の選手が出るなか、志木高は6人全員が普段の力をきちんと発揮できたことが勝因でした。

本校には全国大会に出られるような力のある選手が入学してくるわけではありません。中学校の駅伝は陸上部はもちろん野球やサッカーなどのクラブの生徒でも出場できる学校對抗になっていて、高校はそこで活躍した選手をスポーツ推薦などで集めて強化しないと上位には入れないのが現状です。志木高の生徒は、お呼びがからなかった普通の選手



か全くの初心者しかおらず、長距離走で栄誉を勝ち取るのは至難の業です。そんな厳しい状況のなかですが、走るというこの単純なスポーツにおいて、自己記録更新の価値と、その満足感にはレベルの差がないと私は思っています。最大のモチベーションをその自己鍛錬に置き、3年間みっちり練習することで、多くの生徒が自己記録を大幅に更新して自分の成果を胸に卒業を迎えます。願わくば必死に鍛えた仲間とともに「駅伝で強豪校と闘いたい」、どの選手もそこまで想っています。駅伝は、その場その場での状況判断が要求される競技であり、相手との位置関係、コース環境、自身のコンディションなどさまざまな状況を勘案し、力配分を行います。ゆえに走力とともに普段からの意識の高さと完成度が試されます。今回は難コースだったからこそ、地道に練習を積み重ねた生徒たちが活躍できたのだと思います。能力の違いは個々にありますが、できる限りのことを精一杯やる志木高競走部の伝統が、今回の勝利を生み出したのだと思います。

今年度も、すべての高校長距離選手が目指す都大路(全国高等学校駅伝競走大会)の予選会を最大の目標にしながら、連覇のかかる奥多摩駅伝は昨年同様自分たちの力で最大の走りをするので、結果は「楽しみ」として迎えたいと思っています。